



第1974回 例会

2014-15年度RI会長: Gary C.K. Huang
第2640地区ガバナー: 辻 秀和
創立: 昭和49年5月15日
会長: 谷中 順次郎
幹事: 岡本 博
会報: 北村 圭司 副委員長



VOL41 No. 39

2015年4月22日(水)

事務所: 田辺市下屋敷町81-10
きのくに信用金庫田辺支店3F
Tel 0739-24-6427 Fax 0739-34-5008
E-mail t-eastro@mb.aikis.or.jp
例会: 毎週水曜日 12:30~

司会者 谷中 順次郎 会長

唱 歌

“ 青い山脈 ”
野村 憲司 君



ゲスト WB S和歌山放送 紀南支社長

上田 修司 様

出席報告

会員数	義務免除	欠席者数	本日出席率
45名	2名	7名	83.72%
4月8日修正出席率 90.70%			

ニコニコ箱

(敬称略)

◇WB S和歌山放送 紀南支社長 上田修司様をお迎えして。卓話謝礼をニコニコ箱に頂きました。
後藤 信博、橋本 隆、本田 耕二、岩崎 泰人
片井 貢、木村 壽一、前田 吉彦、森本 修至
中川 文恵、中嶋 伸和、野村 憲司、岡本 博
沖 史郎、奥平 朋久、佐田 一三、杉若 雅宣
谷中 順次郎、上原 俊宏、早稲田 清司、
武田 静也、竹村 英一、山本 亘、安井 忠雄
吉田 和枝、吉本 正美

◇先週、例会へバイクで向かう途中、自転車との事故で欠席となりました。お詫びいたします。

右の大腿部打撲と右肋骨3本、骨折しました。後日痛みましたので、昨日、南和歌山医療センターで手当てをしてきました。まったくの不注意です。

堀 龍雄

◇4年後には社会復帰者、不登校の方のNPO法人を考えています。協力お願いします。丸山 勇人

◇早退お詫び 大久保 勝也

◇お花いただきます。玉置 和男

会長報告

■本日のお客様は、WB S和歌山放送 紀南支社長 上田修司様をお迎えしています。
後ほど宜しく願い致します。

■4月18日(土)岸和田グランドホールにおいて、第2640地区 米山記念奨学会の奨学生とカウンセラーのためのオリエンテーションが開催されました。地区委員の坂本正人君に出席していただきました。ご苦勞様でした。

■4月19日(日) テクスピア大阪において、第2640地区地区決議会が開催されました。田辺東RCを代表して、沖史郎君、武田静也君に出席していただきました。ご苦勞様でした。

■4月26日(日) ROTEX関西4地区(2650地区、2660地区、2680地区、および当2640地区)の企画により「春の遠足」といたしまして、大阪散策が開催されます。他地区の受入学生、派遣候補生との交流の場となるので青少年交換派遣学生の倉山朗子さんと青少年奉仕委員長の谷本 司君に参加していただきます。ご苦勞様ですがよろしくお願い致します。

■4月26日(日) 和歌山県立情報交流センターBig・Uに於いて、公益社団法人 白浜・田辺青年会議所様の創立50周年記念事業「紀南! 魅力! 新発見! ~50年の感謝を込めて~」が開催されます。当クラブは趣旨に賛同し、協賛しております。また、当クラブ協力のブースとしまして、「子供たちに他の国の言葉や習慣、文化の異なる方々とのふれあいを体験してほしい」との想いのもと、米山奨学生の方々と米山学友会にご協力をお願いし、地域の子ども達との国際交流ブースを設けております。地区委員の坂本正人君、と武田 静也君、米山記念奨学委員会の佐田一三君、玉置和男君にお手伝いいただきます。会員の皆様でお時間の許す方はご協力お願い申し上げます。

■5月2日(土) 紀南文化会館において、田辺市合併十周年記念式典が開催されます。ご招待いただいておりますので、会長として出席して参ります。

幹事報告

■例会日時変更

◎和歌山中RC 5月1日(金)→休会

◎和歌山東RC 5月14日(木)→5月12日(火)12:30～

場所: ダイワロイネットホテル和歌山4F

<和歌山RCとの合同例会>

◎和歌山南RC 5月22日(金)→休会

■メイクアップ

◎4月18日(土) 第2640地区 米山記念奨学会の奨学生と
カウンセラーのためのオリエンテーション

坂本正人君

◎4月19日(日) 第2640地区 地区決議会

沖史郎君、武田静也君

■回覧

◎「英語版ロータリアン5月号」

◎ガバナー事務所より

「第33回RYLA研修セミナー開催のご案内」

「RLIパートⅢ日程変更のお知らせ」

■連絡

◎次週4月29日と次々週5月6日の例会は祝日のため休会です。次回は5月13日(水)です。お休みが続きますが、5月13日(水)は当クラブの創立41周年記念例会です。ご出席よろしくお願いいたします。

◎堀会員からモミジを頂きました。

いつも有難うございます。



本日のプログラム

WBS和歌山放送 紀南支社長

上田修司様

「ラジオ放送よもやま話」



ラジオとの出会いは幼稚園児だった頃、朝方父親が寝床でかけていた四国放送ラジオでした。「金長まんじゅう」や「清酒津乃峰」のコマーシャルソングや四国の地名も自然と頭に入っていました。今思えばあれがラジオの「繰り返し効果」だったのでしょう。明洋中学校時代から田辺高校時代は深夜放送に熱中したものでした。先日亡くなったキンキンの愛称の愛川欣也、野沢那智・白石冬美のバックインミュージック、土居まさる、みのもんだ、落合恵子のセイヤング、斉藤安弘、今仁哲夫、高崎一郎のオールナイトニッポンなど聞こえ難い東京からの電波を必死に拾って聞いたものでした。明治大学時代もラジオをよく聞きました。巨人戦ナイターは特によく

聞きました。また、大学時代に登山を始めましたので、ラジオからの気象を中心とした情報収集は必要不可欠でした。

さて、世界、日本のラジオ放送の歴史、歩みを見ながら和歌山放送の歩みも見ていきたいと思います。「世界初のラジオ放送」は1904年(明治38年)12月24日、発明王エジソンの会社の元技師レジナルド・フェッデンが自らの無線局からクリスマスの挨拶、自らのバイオリンと歌で「ホーリーナイト」を歌い、聖書を朗読したものだといわれています。そしてこれが世界初の「クリスマス特番」であり、彼が史上初のラジオアナウンサーでありプロデューサーであったといわれています。

一方「日本初のラジオ放送」は1925年(大正15年)3月22日、(社)東京放送局(NHK東京ラジオ第一放送・JOAK・略称AK)で放送されたものです。ちょうど今から90年前のことでした。6月1日には大阪放送局(JOBK・略称BK)、7月15日には名古屋放送局(JOCK・略称CK)で放送開始、翌1926年(大正15年)に(社)日本放送協会として統合されました。当時、日本領には南樺太、パラオ諸島、台湾、朝鮮などがあり、日本放送協会の番組が放送されていました。先日天皇・皇后両陛下がパラオへ慰霊の旅に行かれました。日本語に堪能なお年寄りがたくさん居ましたが、ラジオ放送の影響もあったのかと想像しました。日米開戦の1941年(昭和16年)まではラジオが娯楽の主演として確固たる地位を築いていました。しかし、開戦から「大本営発表」のプロパガンダ的な放送が多くなりました。ラジオ苦難の時代といえるのかもしれませんが。そして1945年(昭和20年)8月15日正午の昭和天皇による「玉音放送」へとつながっていくのでした。

戦後6年が経過した1951年(昭和26年)日本初の民間放送が誕生します。9月1日に新日本放送(現在の毎日放送)と名古屋の中部日本放送が放送を開始したのです。当時、新日本放送の初代営業部長・関亨は後に和歌山放送の社長となりますが、この事は後に触れることにします。

1953年(昭和28年)テレビが登場しますが、主演はまだまだラジオでした。菊田一夫が脚本を書き、折井茂子が歌った主題歌が大ヒットした「君の名は」は連続ラジオ放送劇として昭和27年から2年間、毎週木曜日の午後8時から30分間放送され、「放送が始まると女風呂が空になる」とまでいわれました。

「君の名は」の放送が終了して5年後の1959年(昭和34年)いよいよ「和歌山放送」が誕生します。4月1日佐藤節夫アナウンサーによる第一声が放送され、和歌山県初の民間放送のスタートとなりました。初代社長は後に参議院副議長、科学技術庁長官となる前田佳都男。この時は和歌山局、田辺局、新宮局の3局でのスタートでしたが、現在では橋本局、高野山局、御坊局、日置

川・すさみ局、串本局を設置し、8局体制で全県、さらに徳島県、南大阪、淡路、神戸～播州方面までカバーしています。

開局の年から田辺・白浜局単独放送開始までを駆け足でたどってみたいと思います。

1959年（昭和34年）

7月12日 田辺第一小学校講堂で開局記念のど自慢大会

7月15日 熊野市で紀勢本線全通祝賀式典を実況中継

7月 高校野球和歌山大会準決勝・決勝を実況中継

1960年（昭和35年）

7月 この年より高校野球和歌山大会全試合を実況中継

12月1日 田辺営業所開設（田辺商工会議所内）

1962年（昭和37年）

天皇・皇后両陛下和歌山県行幸を中継。新宮・勝浦・串本・白浜・下津・和歌山と初の全県生放送を実施

1964年（昭和39年）

橋本放送局、串本放送局開局

1967年（昭和42年）

和歌山放送主催オープン戦、南海一阪神戦を紀三井寺球場で開始。1985年（昭和60年）まで継続

1968年（昭和43年）

関亨社長就任。長寿番組「わたくしの作文」放送開始

※関亨 日本初の民間放送・新日本放送初代営業部長として日本で初めてタイム料金。スポット料金を設定する

1970年（昭和45年）

「ミュージックパトロール」午後のワイド番組として登場。ニュースパトロール車（FMカー）を全国で初めて導入し、速報性、ローカル性を活かし全国のラジオ界に旋風を巻き起こす

長崎屋に総ガラス張りのサテライトスタジオを開設、人気タレントを呼んでのオープンステージは毎回超満員となった

1971年（昭和46年）

7時間の超大型ワイド番組「サンデーパトロール」放送開始

黒潮国体の各競技を実況中継

1972年（昭和47年）

情報センターを設置、「5時ですこちら情報センターです」放送開始

中継車カースタで住宅団地などを巡回する公開録音番組「カースタで歌いましょう」放送開始。司会は横山ホットブラザーズ

1974年（昭和49年）

小野田元少尉帰国のニュースを連日放送

1975年（昭和50年）

「はたちの献血キャンペーン」放送開始

1977年（昭和52年）

24時間放送開始

那智山から全国植樹祭の模様を実況中継

有田市集団コレラ報道でJRNニュースハイライト賞を受賞

1978年（昭和53年）

ITV（国際電気通信連合）の取り決めにより、周波数を変更

田辺 1060kHz→1062kHz

1979年（昭和54年）

開局20周年の節目に新社屋を建設し現在地に移転略称をWBCからWBSに変更

「海の気象ニュース」民放連活動部門優秀賞受賞

1981年（昭和56年）

「農事気象と大坂市場ニュース」放送開始。アメダスのデータを日本の放送史上初めて導入

「オールナイトニッポン」放送開始

1983年（昭和58年）

御坊放送局開局

1984年（昭和59年）

5月田辺スタジオ完成。田辺単独放送開始

田辺単独放送が開始されて30周年を迎えているが、それまでも和歌山放送では地域密着を標榜しているが、どうしても人口が多い和歌山市の情報に偏りがちになっていた。和歌山県は600km以上の長大な海岸線を持ち、南北に長い。それ故に南と北では文化、歴史、風土（フード）、気候とどれをとっても全く別の県といっても過言ではない。単独放送を実施していた北海道、福島、長野などの先進地の情報も集め。田辺単独放送の立ち上げとなったが、当初は試行錯誤、実験の連続であった。まがりなりにも市民権を得て30年間やってこれたのもリスナーのみなさん、そしてご支援いただいたスポンサーの皆様のお陰と感謝しております。現在放送中の「感謝感激！アカシです」のお陰をもちまして皆様方の圧倒的なご支持をいただいておりますが、これに慢心せず、これからも「地域密着」を心がけ、より良い番組作りに邁進して参る所存ですので引き続き皆様のご愛顧のほど宜しくお願い申し上げます。

最後になりますが、東日本大震災ではラジオの有効性が再認識されました。近い将来高い確率で発生する「南海トラフ巨大地震」に我々も備えなければなりません。今、国の施策としてAM放送局のFM補完が進められようとしています。つまりAMとFMで同じ放送をサイマル方式で放送しようというものです。片方が災害で放送できなくなっても、もう一方で災害情報等を流せるようにしようというものです。現在和歌山放送では免許申請作業中で早ければ和歌山局は来春試験放送を開始できる見込みです。その後田辺局（槇山に設置）、御坊局開設後、新宮局、串本局、九度山局と順次開設していく予定です。